



保護者とオリジナルの新聞作りに挑戦する児童
11日、敦賀市赤崎小

自分だけの新聞できた

敦賀・赤崎小児童 記事集め、台紙に



この記事を集める作業をほかの親子も編集会議を行った。この日は福井新聞社の徳島泰彦NIEコーナーディネーターが講師を務めた。

森良紘君(5年)は「新聞作りのためにたくさんの記事に目を通したので、いろいろな事に興味が湧いた」、父の泰紳さん(59)は「子どもの考えなどを理解できたのでとても良い機会だった」と感想を話していた。
(西出昂平)

敦賀市赤崎小の全校児童13人が11日、「自分だけの新聞作り」に挑戦した。児童たちは事前に集めておいた新聞記事を使って、保護者と協力しながらオリジナルの新聞を完成させた。児童は10月に、各学年ごとに決められたテーマや関心のある事柄について

今回は、集めた記事を台紙に貼り付けながら構成を考えたり、見出しを付けたりしていった。徳島コーナーディネーターは「一番伝えたい記事を目立たせるように工夫して」とアドバイスした。

「秋」をテーマにした低学年のある児童は「秋の「ちそうまつり」と夕イトルを付けて、とみつき時や若狭マツタケなど秋の味覚を取り上げた。